

賑わう七北田川河口

■活発なカニ類の活動

初夏の訪れとともに、カニ類が活発に活動している。七北田川河口域ではモクズガニを5匹観察できた(Fig1.)。モクズガニは河川で成長し、成熟個体は秋から冬にかけて降海する。繁殖は翌年の初夏にかけて行われる。今回の調査では、河口域で2匹が一緒になっているところが観察された。近づいたときに離れてしまったが繁殖行動を取っていた可能性がある(Fig.2)。



Fig.1 モクズガニ



Fig.2 一緒にいたモクズガニ

■泥地のカニ

七北田川河口域の泥地ではアシハラガニやチゴガニが活動を始めた(Fig.3)。干潟内には見られないヨシが淡水の影響を受ける河口域では順調に生育している。福田大橋から七北田川河口まで、ボートを使用してカニ類の分布を調べたが、梅田川との合流地点(河口から約4km)までカニ穴を確認することができた(Fig.4)。

干潟内では20匹のイシガレイを採集、全長を測定したが、平均6.7cmとが順調に生育している様子が確認できた。



Fig.3 アシハラガニ



Fig.4 梅田川合流点のカニ穴 (佐藤 賢治)